

「事業名：住民と学生の協働による「ロハスビレッジかつらお」復興まちづくり」 平成30年度補助事業の実績・成果

日本大学工学部 連携市町村：葛尾村、連携市町村との協定締結日：葛尾村の復興まちづくりに係る包括連携協定 平成27年5月15日締結、無人航空機「ドローン」を活用した葛尾村の復興まちづくりに関する協定 平成29年9月26日締結、
現地拠点：双葉郡葛尾村大字落合字落合20-1

事業のポイント

住民と学生との協働により、「ロハス工学」の概念を導入し、以下の事業を進める。①交流の場と社会インフラでは復興交流館の利活用、インフラ(橋)のセルフメンテナンスを実施する。②グリーンインフラでは自然の力を利用した污水处理施設「ロハスの花壇」を村内に導入し、環境学習拠点を形成する。③ドローン技術ではイノシシの生態、橋梁点検、水田耕区等の調査を行うことで、葛尾村発の技術を構築すると共に、ドローンスクールを開講するなど村の活性化を目指す。

今年度の活動実績

- ・6月16日葛尾村復興交流館「あぜりあ」のオープニング以降、「あぜりあ音楽祭」(右写真)等、様々なイベントの開催を通してこの施設の利活用方法を検討した。
- ・11月2日学生と教員が主体となり、橋のセルフメンテナンスの一環として、湯の平橋の高欄塗装を行った(右写真参照)。
- ・12月4日「ロハスの花壇」の設置報告会およびキックオフセレモニーを開催した。
- ・日中にイノシシの生態調査を実施した。
- ・衛星画像、固定翼UAV、回転翼UAVを活用し、葛尾村1.5km²の3Dマップを作成した。
- ・その他、ドローンスクールの開講、かつらお感謝祭における教育プログラムの提供など



今年度の成果

- ・「あぜりあ」における各種イベントの実施がその利活用に有効であることが明らかになった。
- ・住民との協働による橋のセルフメンテナンスの礎を築くことができた。
- ・「ロハスの花壇」の設置により、環境学習拠点が形成された(右上写真)。
- ・日中のイノシシ生息域調査を可能とする手法が構築できた(右下写真)。
- ・衛星画像とUAVを活用することで3Dマップ作成手法を構築できた(右写真)。
- ・上記の様々な事業を通して、役場・村民との信頼関係を構築できた。

